



山多深寺に
くわいのく深寺の

るおら
是る言野山よわおん

僧少くい我此亦都乃ほりてやと

思自作
多し前佛ハ既より後仏

下いま
世は出寸ゆめの中る子生

木まて
何と現と思ふるさる處

受し
ま人身と
け値難寺如来

ん

ん

佛教子ありなる事是よりなるの
事心ありと云ふ心の似たりなる墨
乃衣子牙をたいて 七まれぬ寺
の牙を志しちづくありれをへ寺親
もなり親のるけまハ我為り心を
とじろ子もる千里を行も志し
す燈より山子泊る牙の是る油乃

拙如系く 身ハうら草をさる
多くするまうられ一かりけき
長やふまい一へ多橋慢まの
たれま志う翡翠のうしうらあ
たとくやわに一て楊柳の甚乃同
ふありく一と一又管舌れ精理ハ
病をさくちぬいと病のうと汁

子ちりろせろ花よりやる河より
や今ハ民有賄の目よりくま
ま潜人は恥をさうし終り
ぬ月日より積る百子乃姥と成て
切ハ人目ほくまわもそまきや
夕言 月も海をさく行く
雲井百あや大内山の山もさかた

トテ

いふ言ハよもやうしこめて由
るや鳥羽の五塚秋乃山原れう
の門漸少の潜行人多御沙しく
あまのよくあしうの程よさる朽
木子腰を掛てやすまをわとあひト
さふ子日れ言ていふよ言いよま
あく作や是さふを食のこ一幾ら

詞

トテ

まが正しく卒都婆まぐい教化一々の
けうしろうまぐいじふ是がうをう人
だとのあしきふたハがう一き
たぐも佛体色性の卒都婆あしハま
まうまうこ立のまぐまう前まやま
く ま 仏神父性ハ柔一と及宣ハ
ま是ほとま又神もいふまはまら

敵もる一まぐ朽及とてまはまら
口半上カレ 大とれ深山のらら木ありをたう寺
一木まらあぢ いりしや佛神
まはりお木まるとの酒のまうはる
ミテカレ 我もりや一寺埋木まらとま心のた
らま いあれま手向ままま あさ
ら いはく佛体まらるを謂まらま

多し卒切婆ハ金剛薩埵ニよりニ山ニ候ニ

一々三摩耶教を切ニありニ行ニ

ありニかニ存ニ取ニ多ニりニ地ニ多ニ火ニ風ニをニ

又ニ持ニ五ニ輪ニハニ人ニのニ祈ニるニふニ一ニまるニたニくニ

ありニるニふニくニあニらニハニまニきニまニたニりニ

ワニらニもニ心ニ切ニ徳ニハニりニりニぬニるニ

さて卒切婆ハ切徳ニありニ一ニ見ニ

早

早

卒切婆永頼三西道ニ一ニ会ニ發ニ起ニ堂ニ授ニ

心ニ多ニしニをニ名ニくニつニもニとニろニ一ニ寺ニ喜ニ授ニ

心ニありニハニ本ニとニ浮ニ世ニをニ及ニいニとニりニぬニるニ

寸ニありニ世ニをニいニとニりニぬニるニ心ニ了ニすニ

いニとニりニぬニるニ又ニたニまニきニ及ニ了ニすニ佛ニ

持ニをニ及ニ志ニすニらニりニ仏ニ体ニとニ志ニすニ

多ニくニ卒ニ切ニ婆ニとニ及ニ邊ニ付ニされニ

早

早

りきたるありしうらむら 白雲の鳥等
あざ 破き囊 かわれ笠 かもて
斗一をまくさうち まーて霜雪雨
つゆ 懐をうたもをさふる色紙袂裳
袖もあはくさうば まる路頭子さそ
路の往來の人子おをさふるしにぬ
時多画心又狂乱ま心付て勢りり

きりかひ ありおとさふ山俗
まふ 打りし 小町もさへ通
りふとなふ 小町よゆ
とそ筋ぢらるるを及中を ちや小町
せしよ人多 解子まゝ 涼ふてああ
の玉季あはれこの文 くられてうた
五月雨れと成す 一た乃をりも

あうて今百し平はがらひむくふて
あう人あうか意人らうか
密し心と及だ一とまらふ
まはらふあうてあうらう
うまう一人あはまき甲あみし珠あ思
深草れ四位の少将れ
乃あうりあて車の揚す通りし目ハ

何時う夕暮月うう女よ通路を閉ぢ
ハあうりあてとすうまうか
浄衣れ袴うひあて
うい中修て立烏帽子をあうはわ持
うぬ乃袖をううう
の通流れ月うも切
雨れあも月乃夜も木乃葉の志をい

